

Contest

【過去の結果発表】

2005年アレンジコンテスト ギャグブラス編 結果発表

★ 該当作品なし★

今回は、『ギャグブラス』という笑いをテーマとする初の試みを行いました。

ただ、なじみの薄いカテゴリーであったことからか、応募数も少なく、「これは…」と思える作品がなかったため、今回はコンテストはじまって2度目の入選作品なしと言う結果になってしまいました。

『笑い』という企画の意図が、応募者に伝わっておらず、完全に事務局の企画倒れに終わりました。

一所懸命に、作品を制作してくださった応募者の皆さん、申し訳ありませんでした。

次回の「作曲コンテスト ファンファーレ編」に期待しています。

(2005/10/15)

【総評】

今回のカテゴリーは『ギャグブラス』でした。文字通り『笑い』をテーマとしたものです。音楽作品の中に笑いを求める場合、単なる音楽的な手法や編曲技術だけでは、笑いに到達することはできません。音楽的な要素に加えて、企画力や演出力が求められますので、一見『ギャグ』=『易しい』ように感じられますが、実は非常にハードルの高いカテゴリーであったとも言えます。

聴衆が『笑ったり』『おかしい』と思う状況を簡単に分析しますと、通常の既成概念が、小気味よく裏切られたり、崩されたりする状況、ということがポイントとなるものと考えられます。

聴衆が無意識の中で予測する状況をいかに崩すかが重要な要素になるわけですから、大向こうにあまり概念の存在しないマニャック作品をモチーフにした時点で、既に『笑い』からは遠ざかってしまうわけです。

また、裏切られたり崩された、ということが分かりやすくなければ『笑い』には至らないものと思われれます。人間は、概念のないものには余裕が持てません。余裕がなければ、笑いも起こらないというわけです。

今回の応募作品のほとんどは、選曲が変わっているだけで、作品自体には企画、演出がないものが多かったように見受けられます。また、一部工夫が見られるものも、選曲がマニャックであったり、裏切り方や崩し方が独りよがり、よく分からないものが多かったように思われれます。

我々もコンテストとしてこのカテゴリーが適当であるか否か不安のまま実施してしまった部分がありましたが、改めてこうしたジャンルがコンテストにはそぐわないことを認識致しました。

ご応募くださった皆さん、難しいカテゴリーを提示してしまって本当にごめんなさい。これに懲りずに、是非また別のジャンルで挑戦してください。ありがとうございました。

2006年度は『作曲』と『編曲』の2つのカテゴリーに絞って実施したいと考えています。

(2005.10.15 ズーラシアンブラスプロデューサー 大塚治之)